

放課後クラブ知って

市ふれあい公社企画

川崎医福大生児童と交流

岡山

川崎医療福祉大(倉敷市松島)の学生が6月29日、富山小(岡山市中区福泊)放課後児童クラブを

訪れ、子どもたちと触れ合った。放課後児童クラブについて学んでもらおうと、市立クラブ運営を受託する市ふれあい公社が企



カードゲームで交流する学生と児童

画。

子どもの発達心理などを学ぶ臨床心理学科の学生ら23人が訪問。2、3人ずつのグループに分かれ、カードやボードゲームで児童約30人と遊んだ。指定の図柄を素早く作るパズルゲームでは、児童が最初に完成させると「すごいね」と拍手を送った。

放課後児童クラブの現状について担当者が話をする時間もあり、共働き家庭の増加を背景に利用者が増え、現在は支援員が慢性的に不足していると説明。

「子どもの成長を身近で感じられ、やりがい十分の仕事。アルバイトや就職を検討して」と呼びかけた。

同小2年難波恵帆さん(7)は「普段と違ってお兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」、同大2年渡辺陽奏さん(19)は「雰囲気がよく分かった。将来就く仕事の選択肢の一つとして考えたい」と話した。

(岡亮佑)